

特別支援教育だより

ほほ笑み便り

NO. 3

平成30年10月2日
杉並区立八成小学校
校内委員会

授業では、ノートに文字を書く機会が多くあります。書くときにノートのマス目からはみ出してしまったり、黒板の文字を何度も顔を上げて書き写したりしている…。このような子は、「見る力」に苦手さが隠れている可能性があります。今回のほほ笑み便りでは、「ビジョントレーニング」と「話の視覚化」についてお知らせします。

ビジョントレーニング

こんなことに悩んでいるお子さんはいらっしゃいませんか？

- ・物や人によくぶつかる！
- ・お箸を上手に使えない！
- ・ボールを取るのは苦手！



- ・字がマスに入らない！
- ・うまく黒板を写せない！
- ・読んでいる場所が、分からなくなっちゃう！

学校やご家庭でよくある悩みだと思います。ひょっとしたら、それは視覚機能に課題がある可能性があります。「え？ 視力はいいのに？」と思われるかもしれません。実は、視力と視覚機能は全く別なのです。

視覚機能とは、主に3つのプロセスに分けられます。

ボールを取る動きに例えると・・・

①『入力機能』
ボールにピントを合わせる



②『情報処理機能』
大きさや距離、速さを認識する



③『出力機能』
身体を動かしてボールを取りに行く



日常生活の中で何気なく行う動作も、3つの機能が互いにうまく働くことで可能になるのです。目にはいろいろな機能があり、どこか一つでも適切に機能していないと、様々な困難さを生み出します。しかし、これらの機能は練習をすることで改善していきます。それが表題の「ビジョントレーニング」というものです。最近は、ご家庭でも簡単にできるようなビジョントレーニングに関する書籍が数多く出版されています。また、ドリルでも練習できます。裏面に身近なトレーニングのアイディアと参考文献も挙げますので、どうぞお読みになってください。

- ◇機能的視覚を伸ばす活動◇ けん玉、釣りゲーム、迷路たどり、ボールスポーツ、ボードゲーム
- ◇視覚弁別を改善する活動◇ 見本通りにピースを通す、パズル、お風呂で子供の背中に文字や数字を書いて当てさせる。身体を使って文字や形を作らせる。
- ◇図地弁別を改善する活動◇ かくれんぼ絵本「ウォーリーを探せ」など、パズル、新聞や雑誌から特定の文字で始まることばを探して囲む。
- ◇視覚的記憶を改善する活動◇ 10秒間写真を見せ、写っていたものを思い出させる。
- ◇空間認識を改善する活動◇ 点を結んで完成させる絵や迷路。算数の筆算にはノートのマス目を用い、桁を縦にそろえて書く。
- ◇空間構成スキルを改善◇ 色分けしたフォルダなど自室や勉強机の整理がしやすい環境づくり。物を決められた位置に置く。必要に応じてタイマーや時計を使用する。

【参考文献】

- 北出勝也 「発達の気になる子のビジョントレーニング」 ナツメ社 2015
北出勝也 「発達障害の子のビジョントレーニング」 講談社 2011
木村順 「「小学校で困ること」を減らす親子遊び10」 小学館 2014
視覚発達支援ドリルシリーズ 株式会社スプリングス
内藤貴雄 「小学生のためのビジョントレーニング」 日刊スポーツ出版社
内藤貴雄 「子どもが伸びる魔法のビジョントレーニング」 日刊スポーツ出版社

話す時にも「視覚化」を

友達とトラブルになった、何か良くないことをしてしまったなどの場合には、子供から事情を聞き出したり、説得したり、今後どうしたらよいか正しい方法を説明したりすることがあるでしょう。しかし、耳からいくら言葉を入れられても、聞いている方は何がどうなのか、だんだん分からなくなってしまうものです。特に子供のうちは、なおさら混乱してしまうかもしれません。

ここで有効なのが、話の『視覚化』です。

- ① 子供が話したこと、大事なこと、伝えたいこと、キーワードになるものを紙などに書きながら話を進める。(メモでOK)
- ② 物事の因果関係や話の流れを図に示しながら話を進める。



今回は、「ビジョントレーニング」と「話の視覚化」についてお知らせしました。子供とのコミュニケーションのきっかけにもなりますので、ぜひご活用ください。